

# 半導体漫遊記

348

## 湯之上隆

米インテルが8月1日に発表した2024年第2四半期の決算は売上高が128.3億ドル、営業利益が△19.8億ドル、最終損益も△16.1億ドルの赤字だった。同社のパット・ゲルシンガCEOは、従業員の15%にあたる15000人を削減し、株式配当を停止することを明らかにした。

このインテルの赤字決算は半導体業界のみならず、世界のエレクトロニクス産業に大きな衝撃を与えた。もしかしたら世界の株価の暴落にも影響したかもしれない。

ではなぜ、インテルの業績がこれほど低迷することになったのか？ 筆者はその背景要因に、コロナ特需の終焉とデータセンタ向けのAI(人工知能)半導体での敗北があると推測している。以下で説明する。

20年にコロナの感染が世界に拡大したことから、リモートワークやネットショ

ッピング等が世界的に普及した。その結果、それまで低調だったPCの需要が急拡大した。

PC用プロセッサを主力ビジネスとしているインテルの四半期の業績(図1)を見てみると、20年から21

そのような中で22年11月30日、オープンAI社がChatGPTを公開した。その後、ChatGPTは瞬く間に世界中に普及していき、生成AIブームが訪れた。

このChatGPTなどの生成AIは、AI半導体を搭載したサーバー(AIサーバーと呼ぶ)を多数並べたデータセンタで稼働する。そのため半導体産業の主戦場がAIサーバーに移

主力製品のGPU(Graphics Processing Unit、画像処理プロセッサ)は、もともとはゲーム用半導体だったが、データの並列処理が可能なることからAI半導体に使われるようになってきた。そのGPUがChatGPTの普及をトリガーとして大ブレイクしたのである。

そしてNVIDIAのGPUに追いつこうとAI半

# インテル、赤字決算の衝撃

## コロナ特需終焉、AI敗北

年にかけて売上高は微増程度であるが、営業利益が増大していることが分かる。これはPCの需要が拡大し、供給がタイトになり価格が上昇したこと起因していると考えられる。

ところが22年に入るとコロナのリスクが低下したため、その特需は終焉しPC需要も急減少してしまった。その結果インテルの売上高も急降下し、営業利益は赤字に陥った。

行した。

図1のインテルの業績を見ると、23年第1四半期以降にやや売上高が増えている。しかし図2に示したデータセンタ向け半導体の売上高では、インテルはほとんど増えていない。それどころか23年第4四半期以降は減少傾向にある。

そのインテルとは対照的に米NVIDIAのデータセンタ向け売上高が急拡大している。NVIDIAのお

いてはNVIDIAに大差をつけられ、AMDにも追いつかれつつある。インテルは企業存亡の危機に立っている。今後どうなるのだろうか？ (微細加工研究所・所長)

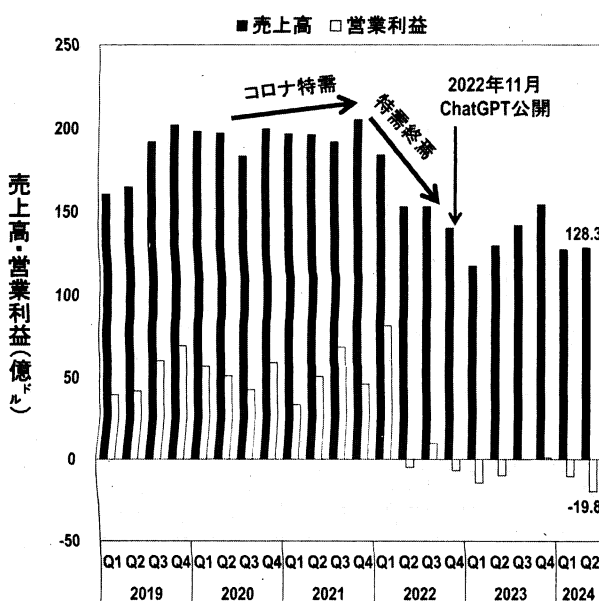


図1 インテルの四半期の売上高と営業利益

出所: インテルの決算報告書のデータに基づき筆者作成

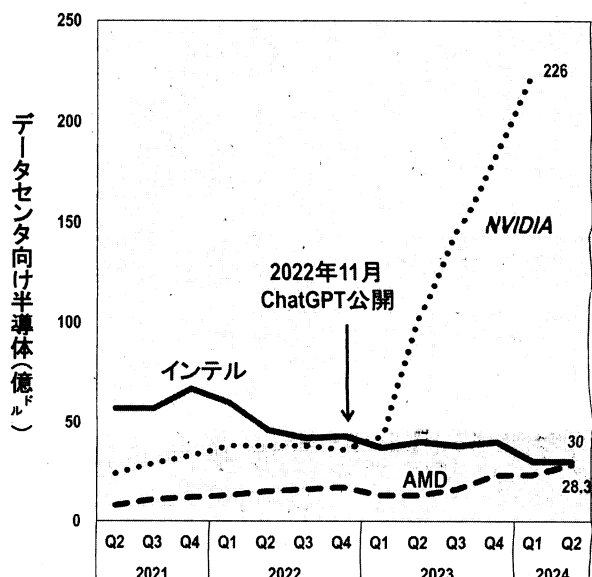


図2 データセンタ向け半導体の売上高 (インテル、AMD、NVIDIA)

出所: 各社の決算報告書のデータに基づき筆者作成